

「私にとっての 図書館」



116P107 宮嶋 香純

私が初めてこの学校の図書館に来たのは、事前学習でのキャンパスツアーの時である。中学や高校にあった図書室とは本の数も設備も段違いで、大変驚いた。その中でも特に驚いたのがアクティブラーニング室である。図書館は静かにしなければならない場所だと思っていたが、この教室では、話し合いや、プロジェクターを使用したプレゼンの練習ができる。私も、入学してから今までに何度かアクティブラーニング室を利用した。その教室は授業がないときは自由に利用できるので、友人と相談しながら課題をこなした。

また、この大学では、図書館でアルバイトをすることができる。私は本が好きで、小中学生の時には図書委員会に所属していた。そのため、図書館で働くことができるライブラリー・アシスタントは、とても魅力的であった。春学期は学校に慣れることに精いっぱい、ライブラリー・アシスタントには応募しなかったが、図書館はよく利用していた。図書館は静かで落ち着いており、勉強に最適で、私もテスト前の勉強やレポートを書く際は、図書館で行っている。家や他の場所では途中で飽きてしまい、投げ出すことも多いが、図書館では「勉強しなければ」と、私の中のスイッチが切り替わり、驚くほど集中して頑張ることができる。これは図書館の独特な雰囲気のおかげであろう。そして秋学期になり、私はライブラリー・アシスタントに応募し採用された。授業との兼ね合いで、本来の時間より少し短い勤務時間で働かせて貰えるようになった。始めたばかりの頃は分からないことが多く、戸惑ったり失敗したりすることもあったが、職員の方々が優しく対応してくださったので、安心して仕事をすることができた。最近はようやく仕事に慣れてきたので、楽しく業務をこなしている。まだまだ完璧とは言えないが、職員の方々は暖かい目で見守ってくれている。これからもライブラリー・アシスタントを続けていき、職員の方々や学生たちの役に立ちたい。

(政治経済学科1年)